

粘土製作について

鎌倉潤光幼稚園 中 村 ひ ろ

十一月號の「幼児教育」誌上にて座談會の（粘土）記事拜見いたしましたして保育に對する皆様のおまやかなお心づかひ誠に尊く存じました。

この幼稚園の子ども矢張り粘土が大好きで御座います。子供が何より好みます此粘土が出来るだけ度々させたいと存じまして私共が實行いたして居ります事を申上げまして御批判仰ぎたく存じましてペンを取りました。

こゝでは一週に一回或は二回粘土をさせて居りますが其都度子供の作りましたものはどんなにまづいものでも残らずそれが乾くまでならべて置いてやります。毀れたりひびれたりしたものは面倒

でも、氣を付けて取りのけます。そして順々に取つて置く必要のないものやあまり長くあるものを取りのけます。乾く頃までには次の製作も出来て居りますので前のを忘れるか、また忘れないでも矢張り毀れたものと思つてます。どちらにいたしましたしてもそこに無理がなく行きます。製作しまして二三日間は思ひ出した様に時折ならべてある粘土を見て居ります。「僕のは何處か知ら」など申して探して居りますがそんな時も無いといふやうな事はたまたまない事と存じます。まして習作の時即座につぶす事は堪えられない事のやうに私は思ひます。それも習作しただけで全部の子供のをつ

ぶすといふのなら子供の方でも、そういうものと

思ふでせうが、残して置かれる子のとつぶされる子のとがある事は子供の心持を考へますと出来ない事と存じます。それが上達せしむるといふ目的のためなら別問題ですが。と申しましても矢張り經濟の方も考へねばなりません、それで一番子供の好む、一番お金のかゝる此粘土をあまり經濟的の苦痛なしに、度々やらせたいと考へましてカチ／＼に乾いた粘土を水の中に入れて置きまして四五日後に、こねて見ますと矢張り元通りに、(新しい粉を適宜に加へて)新らしいのと變りなく使へました。けれどそれではこねます時骨が折れますので、子供が歸つた後に、鐵槌で細かくそれを碎きまして器に入れシヨロで水をそゝいで置き使ふ時にこねて使つてますが新らしいのを、こねますのと少しも變り御座いませぬ。槌で碎くのも二十三人位のを碎くのはわけない事で御座いま

す。

こんな風にいたしますとすべての方面に少しの無理もないいくらでも豊富に粘土を使はせる事が出来ます。たゞあまり繰り返へしてこね返へしては手垢の點など考へますので時折は取りかえる必要も御座いませうがそれも其度毎に捨てるのとはとても比較にならぬほど經濟で御座います。

次に粘土に對するモデルの問題と指導の問題とは平生考へさせられて居ります事だけに得難い記事として拜讀いたしました。

それにつきまして、まあ比較的いゝ方法ではあるまいかと存じてやつて居ります事も御座います、何事にもまだ經驗の浅い事で御座いますのでいづれ後日に申し述べまして御批判いたゞきたく存じて居ります。